

神奈川

れんが張りの建物の屋上に、反り返った瓦ぶき屋根と朱塗りの柱、欄干…。横浜中華街（横浜市中区山下町）に3月18日、レトロな洋風と中華風の折衷建築様式の店舗がオープンした。総合デベロッパー「オーヴァル」（同市中区）が建設し、エンターテインメント施設運営の関連会社「横浜大世界」（同）が運営する複合商業施設で、店名は「横浜博覧館」。

鉄骨3階建て、延べ床面積約1,150平方メートル。小さな店が大半の中華街の中では大規模施設であり、また、そのユニークなたたずまいが人目を引く。吹き抜けのある1階（510平方メートル）では、ミニ月餅、シューマイ、高品質な横浜土産などを販売。2階（390平方メートル）には、「おやつカンパニー」（三重県津市）とタイアップした「ベビースターランド」1号店が出店した。

おやつカンパニーが製造する「ベビースターラーメン」は、1959年発売の“長寿命”のスナック菓子で、大人にも人気がある。ベビースターランドには、その製造工程をガラス越しに見られる“小さな工場”を備え、店舗限定の味や、（お湯をかけて食べる）ヌードルタイプ、具材トッピング、あんかけタイプなどを販売。キャラクターグッズや、同社の他の商品も扱っている。

3階（250平方メートル）には、屋根、柱、欄干などに中華風の意匠を施し、テーブル席（約80席）を用意。屋根のない部分には、シマトネリコ、ピンクシャパンなどの常緑の中低木、季節を感じられる花木を植えた。夏場はビアガーデンとするが、それ以外のシーズンには「自由に入出りできるガーデンテラス」として一般開放する。

横浜博覧館は、後継者難などで2011年5月に閉店した中華街大通りの老舗中華料理店「安楽園」の跡地（約660平方メートル）に建設された。同店は関東大震災（1923年）の直後に開店し、旅館や料亭と見まごうような白壁と日本瓦のユニークな外観で知られた。オーヴァルと横浜大世界は当初、安楽園の大幅改修も検討したが、荷重制限や耐震性などから諦めざるを得なかった。



「横浜博覧館」の3階に設けられた、自由に入出りできるガーデンテラス

中華街に「横浜博覧館」開業 東急・東京メロ相直の経済効果に期待

横浜大世界は「中華街に欠けている機能の補完」を目指して、横浜博覧館の近くでトリックアートミュージアムも運営している。博覧館では「老若男女を問わず『遊ぶ』『食べる』から『くつろぐ』『思い出づくり』までできる、新しい“体験型ショッピングセンター”を目指す」という。年間来館者目標は、トリックアートミュージアムを約10万人上回る50万人以上。

この目標達成の根拠としているのが、横浜博覧館オープン直前の3月16日から始まった東急東横線と東京メロ副都心線の相互直通運転（相直）。地下鉄みなとみらい線元町・中華街駅と東急東横線渋谷駅はこれまでも直通運転されていたが、東急・東京メロ相直により、渋谷から副都心線を経由して東武東上線、西武有楽町線・池袋線までが一つの路線として結ばれた。

「渋谷以遠の都内や埼玉県内からも乗り換えなしで中華街にアクセスできるようになり、大きな経済効果が期待できる」とオーヴァルの関係者。横浜大世界が加盟する横浜中華街発展会協同組合も、近隣の横浜公園通り会や協同組合元町SS会などと連携し、加盟店舗で飲食や買い物の割引特典などが受けられる「元町・中華街駅キャンペーン」を5月6日まで行っている。